

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

ニュース・レター No.146

JSiSE

発行日 2007年1月31日
発行所 教育システム情報学会
発行者 伊藤 紘二
〒533-8533
大阪市東淀川区大隅2-2-8 大阪経済大学内
TEL06-6990-3638 FAX06-6990-3638
<http://www.jsise.org/>
E-mail: secretariat@jsise.org

JSiSE2007

第32回 JSiSE全国大会のご案内

■日程

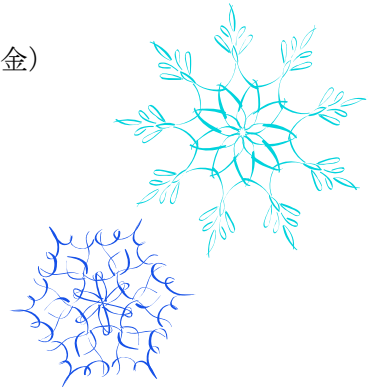
2007年9月12日(水)・13日(木)・14日(金)

■開催場所

信州大学 工学部
〒380-8553 長野県長野市若里 4-17-1

■お問い合わせ

JSiSE事務局
E-mail: secretariat@jsise.org



～～～ 詳細につきましては、随時ご案内させていただきます ～～～



もくじ

全国大会のご案内	1	2006年度第4回研究会報告	12
英文誌論文募集ご案内	2	2006年度特集研究会報告	14
学会誌「特集号」論文募集ご案内	3	研究報告のお求めについて	17
事務局より	4	2006年度第6回研究会プログラム	18
国際会議案内	5	第32回通常総会報告	21
ICCE2007論文募集	7	オーストラリア学会訪問の報告	24
ICALT2007論文募集	8	2007年度研究会予定	26
2006年度第3回研究会報告	10		

教育システム情報学会英文誌 論文募集 (Vol.6, No.1, 2007 年 12 月発行予定)

英文誌編集委員会

教育システム情報学会では、2002 年度から年 1 回定期的に英文誌を発行しています。これまでに発行してきました英文誌は、質・量ともに「教育と情報通信技術」に関する世界レベルの内容となりました。このたび、Vol.6 に掲載する論文を募集いたします。是非、多くの方々にご投稿いただき、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて積極的に発信していただきたいと思っております。

下記の要領に沿って、ご投稿いただきますよう、お願いいたします。

○論文種別

原著論文(Original Paper), 実践論文(Practical Paper),
ショートノート(Short Note), 実践速報(Report on Practice)

○投稿締切

2007 年 5 月 19 日

(投稿は随時受け付けていますが、この期日までにご投稿いただいたものに関しては、Vol.6, No.1への掲載対象となります)

○投稿要件

- 論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
- 寄稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員である場合には投稿料に会員の価格が適用されます。寄稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、投稿料に会員価格が適用されます。

○原稿執筆要領

英文論文誌もしくは下記の URL を参照してください
(<http://www.jsise.org/e-ed/CFP-IJ-JSiSE.pdf>)

○投稿方法

オリジナル原稿を PDF 形式にしたものを電子メールに添付して JSiSE 英文誌編集事務局 (jsise-e@jsise.org) へ送付してください。その他のファイル形式や提出方法を希望される場合は、お問い合わせください。

○問い合わせ先 (メールにてお問い合わせください)

JSiSE 英文誌編集事務局 E-mail : jsise-e@jsise.org

2007年10月発行号掲載 特集論文募集

学会誌編集委員会

テーマ：新しいメディア／デバイスを活用した学習支援環境

○主旨

近年のコンピュータとその周辺環境の技術発展に伴い、新しいメディアやデバイスを用いた学習支援環境が注目されつつあります。例えば、高度なグラフィックスやハプティックス、空間の共有、現実と仮想の合成技術などを利用して、スキル学習などを中心に、体験的な学習支援が可能となりつつあります。また、携帯電話や PDA などの携帯情報端末を用いたユビキタス性を重視した学習支援環境も整備されつつあります。本特集では、このような新しいメディアやデバイスを活用した学習支援環境に関する論文を広く募集します。またこれらのデバイスを利用するコンテンツ開発に関する研究も歓迎いたします。

○対象分野

本論文特集は、新しいメディア／デバイスを活用した学習支援環境に関連する研究を広く募集致します。但し既存のメディア／デバイスに関連する研究であっても、新しい活用法を含むものであれば対象範囲とさせていただきます。

具体的なキーワードとしては次のようなものを挙げることはできますが、これらに限りません。

スキル学習、体験的学習、協調学習／グループ学習、CSCL、ILE、バーチャルリアリティ、ヒューマンインタフェース、高度なグラフィックス技術、音声言語処理、力覚提示デバイス、HMD、空間共有技術、現実と仮想の合成技術、センサ技術、シミュレーション環境、携帯電話、PDA、RFIDタグ、GPS、センサーネットワーク、デジタルペン、無線LAN、ブルートゥース、赤外線通信、WWW、インターネット、ハイパーメディア

○論文種別

原著論文、ショートノート、実践論文、実践速報を募集します。なお、査読の結果により、異なる種別での採録になることがあります。また、編集委員会の判断により、特集ではなく一般投稿論文としての採録とさせていただきます。

○投稿要領

一般の論文投稿規程に準じます。投稿に際しては、原稿の1ページ目および封筒に「新しいメディア／デバイスを活用した学習支援環境」と朱書きしてください。

○スケジュール

投稿締め切り：2007年3月8日

掲載予定：2007年10月1日発行の学会誌

○問い合わせ・原稿送付先

教育システム情報学会事務局

〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8 大阪経済大学内

E-mail：secretariat@jsise.org



事務局より

2007年度 年会費のお振込みについて

来年度より年会費のご請求を、前年度の2月にさせて頂くことに理事・評議員会で決定されました。つきましては2007年度（2007年4月～2008年3月）の年会費のご請求を、2007年2月にさせて頂きますのでよろしくお願いいたします。

また、来年度（2007年度）より年会費のお振込期限を5月末日とさせて頂きます。

※お振込を事務局で確認できない場合には、確認できるまで学会誌の発送を停止させて頂きますのでご注意ください。

※今後、長期にわたり年会費が未納となった場合は、自動的に退会として処理させて頂きます。



⑨：長期にわたり会費が未納となっている方は、すでに通知をさせていただいております。

国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡ください。

また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

新規情報 5 件

ITHET2007 : 8th International Conference on Information Technology Based Higher Education and Training

開催日程 : 2007年7月10-13日

主 催 : 熊本大学, メディア教育開発センター (NIME) , 他

共 催 : 教育システム情報学会, 教育工学会, 他

論文応募締切 : 2007年2月1日

開催地 : 熊本, 日本

U R L : <http://ithet07.coe.kumamoto-u.ac.jp/>

ICCE2007 : 15th International Conference on Computers in Education

開催日程 : 2007年11月5-9日

主 催 : APSCE (Asia-Pacific Society for Computers in Education)

共 催 : 教育システム情報学会, 教育工学会

論文応募締切 : 2007年4月23日

開催地 : 広島, 日本

U R L : <http://www.icce2007.info/>

ISWC 2007 : 6th International Semantic Web Conference

開催日程 : 2007年11月11-15日

主 催 : Semantic Web Science Association

論文応募締切 : 2007年5月18日

開催地 : Busan, KOREA

U R L : <http://iswc2007.semanticweb.org/>

KES2007 : 11th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems

開催日程 : 2007年9月12-14日

併設会議 : WIRN 2007 XVII Italian Workshop on Neural Networks

論文応募締切 : 2007年2月 (日は不明)

開催地 : Vietri sul Mare, Italy

U R L : <http://kes2007.kesinternational.org/>

E-mail : kes2007.gentrack@kesinternational.org

KGCM 2007 : International Conference on Knowledge Generation, Communication and Management

開催日程 : 2007年7月8-11日

併設会議 : The 11th World Multi-conference on Systemics, Cybernetics and Informatics: WMSCI 2007

論文 or 概要応募締切 : 2007年1月24日

開催地 : Orland, Florida, USA

U R L : <http://www.iiis-cyber.org/kgcm2007/>

E-mail : kgcm2007@iiis-info-cyber.org

EISTA 2007 : The 5th International Symposium on Education and Information Systems, Technologies and Applications

開催日程 : 2007年7月12-15日

併設会議 : The International Multi-Conference on Society, Cybernetics and Informatics: IMSCI 2007

論文応募締切 : 終了

開催地 : Orland, Florida, USA

U R L : <http://www.cyber-inf.org/imsci2007/website/default.asp?vc=5>

E-mail : eista2007@cyber-inf.org

再掲情報 1 件

ICALT2007 : The 7th IEEE International Conference on Advanced Learning Technologies

開催日程 : 2007年7月18-20日

論文応募締切 : 2007年2月1日

主催 : IEEE Technical Committee on Learning Technology, IEEE Computer Society

開催地 : 新潟, 日本

U R L : <http://www.ask.iti.gr/icalt/2007/>

国際会議案内文責 松田 憲幸 (和歌山大学)

E-mail : matsuda@sys.wakayama-u.ac.jp



15th International Conference on Computers in Education (ICCE2007) 論文募集

平嶋 宗 (広島大学)

ICCE2007 が 2007 年 11 月 5 日～9 日の日程で、広島において開催されます。
論文の投稿締め切りは、2007 年 4 月 23 日です。教育システム情報学会がホストの
一つとなって開催されますので、奮っての投稿、参加をお願いいたします。

--- CALL FOR PAPERS ---

15th International Conference on Computers in Education (ICCE2007)
<http://www.icce2007.info/>

November 5-9, 2007
Hiroshima Prince Hotel, Hiroshima, Japan

Full Papers, Short Papers: Submission due: April 23, 2007

Organized by APSCE (Asia-Pacific Society for Computers in Education)
<http://www.apsce.net/>

Hosted by

- JSET (Japan Society for Educational Technology)
<http://www.jset.gr.jp/english/index.html>
- JSiSE (Japanese Society for Information and Systems in Education)
<http://www.jsise.org/>

Best Regards,

Tsukasa Hirashima
Dept. of Information Engineering, Hiroshima University

会員各位

7th IEEE International Conference on Advanced Learning Technologies (ICALT 2007) 論文募集

植野真臣 (電気通信大学)

IEEE 国際会議 ICALT2007 が 2007 年 7 月 18 日～20 日に、新潟にて開催されます。
以下のように論文投稿締め切りが迫ってきております。多数の皆さんのご投稿をお待ちしております。

7th IEEE International Conference on Advanced Learning Technologies (ICALT 2007)
July 18-20, 2007
Niigata, Japan
<http://lutf.ieee.org/icalt2007/>
<http://www.ask.itl.gr/icalt/2007/>

* Important Dates

February 5, 2007 - Paper submission
March 16, 2007 - Notification of acceptance
April 6, 2007 - Copyright form submission
April 6, 2007 - Final camera-ready manuscript
April 16, 2007 - Author registration deadline

** Proceedings will be published by the IEEE Computer Society Press. **

Theme: "Distributed social and personal computing for learning and instruction"

We invite submission of papers reporting original academic or industrial research in the area of Advanced Learning Technologies. All papers will be peer-reviewed. Complete papers will be required for review process; only abstracts will not be sufficient.

All authors of accepted submissions will be required to complete IEEE Copyright Form. Authors of selected papers will be invited to submit extended versions for a Special Issue of the SSCI indexed Journal of Educational Technology & Society (ISSN 1436-4522).

* Topics of Interest

New Generations of educational technologies
Educational technologies for new generations
Technologies for real-time assessment of learning and performance
Linking dynamic concept mapping and problem solving in complex domains
Personalized mobile computing for learning and instruction
Social computing

Personalized systems
Interdisciplinary programs to prepare educational technologists
CSCL technologies
Content authoring technologies
e-Pedagogy and Instructional Design
Knowledge Management Technologies in Education
Organizational Management of e-Learning in Universities
e- testing and new test theories
Data mining, text mining, and web mining in education

*** Program Co-Chairs**

J.M. Spector, Florida State University, USA
Demetrios G. Sampson, Center for Research and Technology - Hellas, Greece
Toshio Okamoto, The University of Electro-Communications, Japan

*** General co-chairs**

Toshio Okamoto, The University of Electro-Communications, Japan
Kinshuk, Massey University, New Zealand
Stephano Cerri, LIRMM, CNRS & Un. Montpellier II, France

*** Panel Co-chairs**

Steve Yang, National Central University, Taiwan
Rob Koper, Open University of The Netherlands, The Netherlands

*** Workshop Co-Chairs**

Alexandra Cristea, Warwick University, UK
Yasuhisa Tamura, Sophia University, Japan

*** Tutorial Co-chairs**

*** Paper Submissions**

Submissions are invited in the following categories:

- Full paper: 5 pages
- Short paper: 3 pages
- Posters: 2 pages
- Tutorial proposals: 2 pages
- Panel proposals: 2 pages
- Workshop proposals: 2 to 5 pages

Submission information is available at:
<http://www.ask.iti.gr/icalt/2007/>



学習の身体性とマルチモーダルインタフェース (音声言語インタフェース含む) / 一般

担当：研究会委員会
平嶋 宗 / 小西達裕

2006年9月15日に東京理科大学理窓会館において第3回研究会を開催いたしました。今回の研究会では学習科学において最近注目されている「身体性」をテーマとして設定し、この分野の研究4件、一般分野の研究2件をご発表いただきました。参加者は40名ほどでした。

テーマ発表としてはスキル学習支援に関する研究、マルチモーダルインタフェースを利用した第二言語学習支援に関する研究、バーチャルリアリティの学習支援への応用に関する研究があり、この分野のホットな話題を幅広く提供していただけたと思います。本研究会のテーマは現在企画されている学会誌特集号の募集テーマとも関連が深く、今回の発表から学会誌掲載論文が生まれることも期待しています。研究会後には懇親会を開催し、発表時の質疑の議論を深めるとともに、伊藤会長の示唆に富んだコメントをいただくこともでき、充実した研究会でした。

開催日 2006年9月15日

場 所 東京理科大学 理窓会館

1) デッサン学習者の視線動作分析と認識・動作の診断助言が可能なデッサン学習支援システムへの応用

齋藤洋志, 古賀俊廣, 和田隆人, ○曾我真人, 松田憲幸, 高木佐恵子, 瀧 寛和, 吉本富士市 (和歌山大学)

スキル学習のひとつであるデッサン学習を支援する学習支援環境を構築するには、成果物であるデッサン画の診断だけでなく、描画過程における、認識、行動、認識と行動の対応付けについても、診断対象とすることが必要である。本稿では、デッサン描画時の被験者の視線動向の分析実験を行い、デッサン時のモチーフ認識を診断するシステムの構想について述べる。また、デッサン時の行動を診断するシステムとして腕動作診断助言システムについて述べる。さらに、デッサン時に紙面上でのペンの位置に応じて情報を提示する領域情報提示システムについても述べる。

2) テキストと音声再生に関連づけた音声プロソディの表示による第二言語表現獲得の支援

○中村 宏, 小松崎 聖, 倉山 めぐみ (東京理科大学), 掛川淳一 (兵庫教育大学), 伊丹 誠, 伊藤紘二 (東京理科大学)

テキストの与える場面設定とエピソード的な文脈の中で表現の使い分けを、比較を通じて学習させる、総合的な第二言語学習支援システムを

開発している。内包される音声言語上の支援では、第二言語習得における表現獲得の目的にとって、音声言語習得、特にプロソディ (韻律) の習得が大きな役割を果たすという仮説に基づいて、日本語と英語を対象とした第二言語学習支援システムを構築している。このシステムにおいては、予め、模範音声で音声認識エンジンで処理して得られるモーラもしくはシラブル毎のタイムスタンプと、日本語支援の場合は基本周波数、英語支援の場合はパワーデータから、韻律情報のタイムスタンプを取得し、これをテキストの位置情報に埋め込んだXML ファイルからDOM 木を作り、学習者が、テキスト表示の任意の位置から模範音声読みを再生するとき、それと再生音声自体のタイムスタンプの対応をとって、休止を含む韻律情報を視覚的にテキスト上で先行表示することで聞き取りを支援する。さらにそれを後づけする学習者の発声のリアルタイムでの認識結果に基づくプロソディも比較表示するよう構築している。

3) 体験型学習を志向した反力デバイスを用いた初等力学の実験環境について

○松原行宏, 岩根典之 (広島市立大学)

VR 技術を積極的に活用した学習支援システムの開発が盛んになってきた。特に、学習者に力のフィードバックを与える事が可能な反力デバイスを用いたシステムは、直接学習者の感性に直感的に訴えかける事ができ、特に力学系の教材での活用が期待される。本発表では体験型学習を志向した反力デバイスを用いた初等力学の実験環境

のプロトタイプシステムの開発をいくつか行ったので、その概要について報告する。

4) 共有バーチャル空間を用いた磁場の体験型学習支援システム

○津野 吉徳, 原田 哲也 (東京理科大学)

これまで共有バーチャル空間を用いて、他の学習者と体験を共有し、視覚、力覚情報により、電流のつくる磁場を直感的に学ぶことのできる協調型の学習環境を構築してきた。本システムでは他人の存在により、学習者の主体性を引き出し、他者とのコミュニケーションを通してより深い学習に向かわせることが期待できる。学習者同士の更なる知識の共有やコミュニケーションの活性化を目的として、共有バーチャル空間を用いた磁場の体験型学習支援システムの学習環境の強化について報告する。

5) 抽象的データ構造を用いたアルゴリズム表現に基づくプログラム評価システムの実用性評価

○鈴木浩之, 小西達裕, 伊東幸宏 (静岡大学)

我々は、初等プログラミング演習を担当する教師の負担軽減を目的としたプログラム評価システムを構築している。これまでに、実際に演習で設定される演習目標を分析し、試作システムの設定・構築を行ってきた。本稿では、リスト・二分木といったプログラミング言語では直接は提供されていない抽象的なデータ構造の概念やそれらのデータ構造に対する操作の概念の教育を目的としたプログラミング演習における試作システムの支援能力を実験的に評価し、本システムの有効性を示す。

6) 作問学習支援システム：モンサクンの設計・開発と実践利用

○平嶋 宗 (広島大学), 横山琢朗 (九州工業大学), 岡本真彦 (大阪府立大学), 竹内 章 (九州工業大学)

筆者は、これまでに算数の文章問題を対象として、学習差の作成した問題を診断し、その結果に応じてフィードバックを与えることのできる知的作問学習支援システムに関する研究を行ってきた。本稿では、単文統合としての文章問題作りを行わせる作問学習支援システム：モンサクンについて報告する。小学2年生を対象とした本システムの実践利用を実施したところ、(1)本システムを長期間にわたり利用することによる学習効果が得られたこと、および(2)小学2年生が長期間にわたり本システムを利用した問題作りを自主的に行い続けたことが示唆された。また、利用後に行ったシステム利用評定では、児童、教諭ともに本システムを利用した問題作り学習を肯定的に捉えていることが分かった。



生涯学習と高等教育／その他

担当：研究会委員会

黒瀬能幸／磯本征雄／米澤宣義

出席者 30 余名を迎えて、テーマ「生涯学習と高等教育」の下で、研究発表件数 8 件について、午後 1 時から午後 5 時前まで熱のこもった発表と活発な質疑応答がなされました。発表課題の内訳は、大きく「大学と地域社会との連携」と「大学生向け教材の開発」の 2 つでした。大学院生の研究成果の発表の場として、教育システム情報学会主催の本研究会が活用されており、気持ちのよい討論の場を持つことができました。

日 時 2006 年 11 月 25 日

会 場 岐阜聖徳学園大学

1) 理解状況に適応した多肢選択式問題の自動生成に関する構想

津森伸一、海尻賢二 (信州大学大学院総合工学系研究科)

著者らは、選択肢を適切に選択することにより、学習者の理解状況に応じた多肢選択式問題を自動的に生成する方法を検討している。多肢選択式問題は、問題文と選択肢による定型的な形式で生成されるため、語彙情報を知識ベースとして作成しておくことにより、機械的に多くの問題を生成できる。更に、学習者の語彙に対する理解状況を適切にモデリングすることにより、この学力に適応した問題を多数提供できることが期待できる。本稿ではその構想について報告する。

2) 顔認識を利用した遠隔講義補助のためのカメラ制御

大西祐樹 (近畿大学大学院)、越智洋司 (近畿大学)、白石善明 (名古屋工業大学)

同期型遠隔講義において、遠隔地にいる受講者の確認や撮影をするためには適切なカメラアングルを実現する必要がある。本研究では、顔認識技術を用いて受講者の認識と撮影支援を行うための顔認識情報の管理とカメラ制御手法について述べる。

3) 『あいち IT 人材育成特区』とその認定カリキュラム

武岡さおり、森屋裕治、川田博美 (名古屋女子大学短期大学部)

本専攻 (短期大学部生活学科生活情報専攻。以下、本専攻) では、「実践的情報技術教育の実現」と「就職率と資格合格率の向上」を目標に、毎年のカリキュラムの改定や成熟度別クラス編成の採用などの施策を積極的に行い、より特色ある情報系短大を目指してきた。平成 16 年度からは、さらに「ハートライブ・プロジェクト」を本格的に展開し、本専攻の改革を推進している。特に、「実践的情報技術教育の実現」のために毎年実施してきたカリキュラムの改定の取り組みには、競合他校の状況や社会情勢を分析し、競争力を持ったカリキュラムの実現を図る目的がある。その結果、本専攻のカリキュラムは、総理府の「構造改革特区」による『あいち IT 人材育成特区』の認定を受けることとなった。愛知県内の短大では唯一の認定である。この制度の概要と認定を受けたカリキュラムについて報告する。

4) 高等学校での情報教育の履修と大学教育への期待

塚本邦昭、森下博行、吉田祐司 (芦屋大学)

2006 年度以降に入学する学生は、これまでの入学生に比べて情報リテラシー能力が向上していると予想される。また、全国的な調査では 2006 年度の入学生は情報に関する能力が向上している一方格差が大きくなったとの報告がある。大学情報教育カリキュラム検討のためには高等学校の教育状況を把握する必要性があり、2006 年 4 月に入学してきた学生と前年に入学した学生に対してアンケート調査を実施した。その調査とその分析結果を報告する。

5) 英語教育のための音声音符化システムの開発
溝渕昭二, 越智洋司, 井口信和 (近畿大学),
江藤由布 (近畿大学附属高等学校), 安藤一秋
(香川大学), 向井苑生 (近畿大学)

社会の国際化が進展するなか、国際語としての英語の地位はますます向上している。このため、教育機関に対しては、英語でコミュニケーションできる人材を育成するための効果的な教育の実践が求められている。現在、我々の研究グループでは、音符化した音声英語教育に活用する方法を検討しており、音符化した音声进行分析し、音符として視覚的に表示することで、プロソディ学習の支援をおこなうシステムの開発している。本稿では、そのシステムについて説明する。

6) 授業適応型アンケートシステムの開発と実践

坂本健成 (九州工業大学大学院), 西野和典 (九州工業大学), 篠原武 (九州工業大学大学院)

近年、大学における授業評価の必要性が主張されている。形成的評価を目的として、授業評価アンケートをさらに有意義にするには、質問を授業に適応して設定する必要があると考える。本稿では、質問の授業適応を考慮した「授業適応型アンケートシステム」の開発と実践について報告する。

7) 学部学生による“企画・運営・実施”の演習授業～公開講座を例にして～

神谷勇毅, 磯本征雄, 伊藤敏 (岐阜聖徳学園大学大学院)

パソコンやインターネットの急速な普及による情報社会の進展は、e-Learningなどの学習環境の多様化だけでなく、学習内容や学習方法にも大きな変化が起きている。特に、情報分野では、新機種製品やソフトウェアのバージョンアップなど、学ぶべき新情報が次々と発生している。こうした傾向は、将来においてさらに一般化するであろう。一方、これに関連して、大学及び大学教育のあり方においても、大きな変革が必要になっている。こうした社会情勢を踏まえて筆者らは、地域住民のための4年制大学学部学生による“情報技術の入門講座”の実施を試みている。この目的は、学んだ事柄を早速に他社に教えることで、“学習”に対する学生の理解を強化することである。今回は、「ホームページ作成・運用」を題材にし、学部学生による公開講座の企画・運営・実施を推進している。本論分では、その実情を報告する。

8) 負荷適用型ブックマークによる Web からの知識構築支援

中谷俊介, 光原弘幸 (徳島大学大学院), 金西計英 (徳島大学), 矢野米雄 (徳島大学大学院)

The bookmark is indispensable for knowledge construction from the Web, because it can increase the efficiency of knowledge construction by enabling learners to revisit valuable web pages. However, we think that the bookmark may prevent the learners from knowledge construction and may not increase the effectiveness of knowledge construction. In this study, we propose the framework of load application oriented bookmark, which integrates the bookmark and a notebook tool. This framework aims at increasing the effectiveness of knowledge construction by giving a educational burden to learner.



新しいメディア／デバイスを活用した学習支援環境

担当：研究会委員会

松居辰則／小西達裕

2006 年 12 月 9 日に大阪経済大学において表記研究会を開催いたしました。本研究会は 2007 年 10 月に発行予定である学会誌特集号への投稿の活性化をはかることをねらいとして企画されたものです。特集号への関心の高さを反映してか、13 件と多数のご発表をいただき、参加者も 50 名ほどとなりました。

本研究会では学会誌投稿の支援のために、ご希望があった研究発表に対し、事前に研究会委員会によって論文投稿を想定したコメントを作成し、会場でこれを著者にお伝えするという新しい試みを行いました。またコメント希望の発表に対しては十分な議論を行えるよう、発表時間を 25 分、質疑時間を 35 分とすることとしました。結果として発表後のディスカッションは質・量ともに大変充実したものとなり、参加者の方からも非常に面白い研究会であったとのお言葉をいただきました。次年度以降も同様の企画を考えておりますので、どうぞ奮ってご発表・ご参加いただけますようお願い申し上げます。

開催日 : 2006 年 12 月 9 日

場所 : 大阪経済大学

A 1) パーソナルコンピュータ操作に対する苦手意識の判別と影響の分析

広瀬啓雄 (諏訪東京理科大学), 難波和明, 山本芳人 (東京理科大学), 市川博 (産能短期大学)

In this study, we made the questionnaire from to distinguish people who are uncomfortable with personal computer (PC) operation from people not so. We experimented the distinction of people who didn't have it with people who are uncomfortable with PC operation by using this questionnaire from. As a result, we clarified the feature of the histogram of the indicator of uncomfortably feelings with PC operation, and the correlation of other individual characteristics that related to PC operation and the stability of the indicator of uncomfortably feelings with PC operation. Next, we experimented the investigation of the feature of people who are uncomfortable with PC operation. As a result, we clarified the following two points. (1) There is an influence for uncomfortably feelings with PC operation to lower the perfection level of the problem that uses PC. (2) People who are uncomfortable with PC operation cannot operate the PC step by step as written in the online manual.

A 2) 電子掲示板への課題提出が学習者の学びに与える効果

谷口るり子 (大阪国際大学)

As one part of research investigating the effects which learning support using information and communications technology has on student learning, this research looks at learning support using an electronic bulletin board system. Students working on the topic of "creating test problems" submitted their created problems to the electronic bulletin board system. The access log of this bulletin board system was analyzed, and the results showed that accessing the articles of others tended to have a beneficial effect on student test scores. Also, when the results of the class evaluation questionnaire were analyzed, an increase was found in the number of students who felt they had done preparation/review, depending on the subject. This paper also gives the results of comparing the effects on students of two previously used learning supports (drill-style web quizzes, and web-based instructional materials based on PowerPoint files presented in class) with the learning support discussed here of submitting assignments to an electronic bulletin board system.

A 3) 携帯情報端末を用いた協同データ収集と利用方法の提案

平島和雄, 綿越貴久 (京都市立稲荷小学校), 安川直樹, 守屋和幸, 酒井徹朗 (京都大学大学院)

We developed an education support system by which elementary school children can implement a learning program in units of classrooms in outdoor social educational facilities (zoos, botanical gardens, etc.). Our support was made by providing methods for collaborative data gathering with the use of mobile information devices which are deemed to be a support tool for individuals, and compilation and graphing of the collected data. We also showed that a learning program in units of classrooms can be produced by practicing education.

A 4) eラーニングにおける適応的な教授法に基づく新しい協調学習の展開

小笠原有正 (北海道情報大学大学院), 齋藤一, 齋藤健司, 前田隆 (北海道情報大学)

昨今, eラーニングの動向や普及の中で, これらに対応する特徴の視点から eラーニングにおける教授法(Pedagogy)の枠組みに関する研究が盛んに行われ, そこから学習者の状況にあった適応的な指導が重要になっている。

本研究では, 学習者に適した eラーニングにおける教授法を基に学習支援する「額取捨の状態に合わせて教え方が変わる eラーニングシステム」の開発を目指している。本稿では, 学習者に適した eラーニングにおける教授法を構成し, これを用いて指導する枠組みの作成を試みる。また, eラーニングにおいて学習者に適応的な教授法の構成を基に, 協調学習の具体的な展開として, 強い協調と弱い協調という学習方式を提案し, その意義に関する視点から議論する。

A 5) エージェント指向に基づいた協調 eラーニングシステムと適応的教材検索

中村佳祐, 齋藤健司, 齋藤一, 前田隆 (北海道情報大学)

近年, コンピュータの高性能化やネットワーク帯域の高速化, Webアプリケーション技術の発展により, 従来の個別学習に加え, 学習者間でコミュニケーションをとりながら協動的に問題解決しあう協調学習を行うための技術インフラが整備されてきた。特に, Webアプリケーション分野においては, 多数の高性能な Webアプリケーションが開発され, オープンソースソフトウェアとして公開されている。本稿では, オープンソースソフトウェアをベースとした協調 eラーニングシステムの構成に加え, 学習がシームレスに行われる事を支援するためにセマンティック Web 技術で記述されたデータを処理できる学習支援エージェントを導入することで, 学習活動を効果的に支援するシステムの枠組みについて議論する。さらに, エージェントによる学習支援のひとつの例として, 学習者に適応的な教材検索エージェントについて議論する。

A 6) 音声再生に合わせて文字列と韻律の視覚提示を行う第二言語表現獲得支援システム

中村宏, 小松崎聖, 芝木裕功, 樋口貴裕, 倉山めぐみ (東京理科大学),
掛川淳一 (兵庫教育大学), 伊丹誠, 伊藤紘二 (東京理科大学)

We propose an integrated environment for assisting learning Japanese or English as second language through comparison between different usages in texts, of the same or related expression, with contexts. For phonetic aspects of assistance of language learning, in the system implemented is a module providing the highlighting text location in synchronism with reproduction of the instructor's voice. And in reading the text, the learners can listen to the recorded voice viewing its prosody presentation along with that of their own follow-up pronunciation. In order to synchronize visualization of voice progression and prosody in relation with the text being voiced, we obtain voice time stamps of moras and phrases using a speech recognition engine, on the other hand prosody data sequence with timing data from pitch analyzer, and these data are integrated into an XML file using syntactic tags.

A 7) KaTaCom : コンピュータ用語を対象とした中国人留学生のためのカタカナ語学習システム

盧 颯, 山下直子, 富永浩之, 林 敏浩, 山崎敏範 (香川大学)

The number of Chinese who learn Japanese has been increasing year by year. Currently, it has accounted for about 67% of whole foreign people in Japan who are learning Japanese. Especially, it is necessary for international students from Chinese to learn basic knowledge of technical terms of computer for their study and research. Many technical terms of computer are in form of Katakana so that they are difficult for Chinese students. We analyzed the difficulties about learning computer terms in form of Katakana for Chinese students and proposed a method for the learning based on our analysis. We developed a Katakana learning system called KaTaCom for Chinese students to acquire technical terms of Computer. KaTaCom applied a listening-typing strategy to overcome the difficulties in listening and Katakana notation. For learning Katakana terms, KaTaCom gives students their illustrations and interpretations in Chinese. Our system additionally indicates special points of difficulties, such as sonant, long vowel, and so on to make students turn their attention to those points. We evaluated our system with Chinese students and confirmed that KaTaCom is helpful for them.

B 1) 腕動作と道具状態のモニタリングによる助言が可能なデッサン学習支援環境

前野浩孝 (日立テクニカルコミュニケーションズ), 古賀俊廣, 曾我真人, 松田憲幸, 高木佐恵子, 瀧 寛和, 吉本富士市 (和歌山大学)

スキル学習のひとつであるデッサン学習を支援する学習支援環境を構築するには、成果物であるデッサン画の診断だけでなく、描画過程における、認識、行動、認識と行動の対応付けにおいても、診断対象とすることが必要である。本稿では、デッサン時の行動を診断するシステムとして腕動作診断助言システムについて、そして、デッサン時に紙面上でのペンの位置に応じて情報を提示する領域情報提示システムについて述べる。また、既存の成果物診断助言システムとの比較で評価を行ったので報告する。

B 2) プロの操作からイラスト作成を学ぶWeb デザイナー養成訓練学習システム

藤田紀勝 (四国職業能力開発大学校), 林 敏浩, 山崎敏範 (香川大学)

Companies tend to recruit the human resources with immediately useful technique for the graduated occupational trainee. Therefore, to train the technician of Web designers with an immediately useful technique, it is needed to include, not only acquiring a basic work, but also mastering the ability to achieve the practical requirements for the clients in the real workplace, such as the balance among the quality, the time and the cost of the products in the occupational training. The training system consists of video streaming teaching materials, web test for the required knowledge and practical training subject learned through a real operation. The trainee learns these teaching materials according to an individual training environment. Instructors of vocational training have to teach them with their different ability man to man. From the questionnaire on the experimental study of our system, we clarified the usefulness of our teaching design materials and also proved the improvement of the trainee ability.

B 3) テレビ会議システムを用いた英語授業支援5年間の成果と課題

笹部 徹, 中植雅彦, 中村絃子 (武庫川女子大学)

English Department, Faculty of Letters of Mukogawa Women's University has carried out video conference project for the benefit of the students by utilizing the facilities and equipments in the computer classroom since 2001 with its branch school, Mukogawa Fort Wright Institute (hereafter MFWI) located in Spokane Washington USA, established in 1990. These classes are designed to help the students to improve four skills of English, to acquire the skills of discussion and presentation, and also to obtain knowledge through lectures of various fields. This paper tells about advantages and disadvantages of a video conference class by introducing and reflecting on what we have achieved so far such as the preparation of students ready for a conference, the contents of conferences, the roles of teachers and students, assignment to students after the conference for reinforcement of what they have obtained. The three presenters will present the whole view of a video conference, and then focus will move onto the technical

aspects of a conference, considerable benefit for English learners and finally analytical assumption is demonstrated through the questionnaires sent out to the students afterward.

B 4) デジタルペンを用いた「教室内学習活動の見える化」システム

三浦元喜, 國藤 進 (北陸先端科学技術大学院大学)

我々は生徒がプリントなどの紙媒体に書いた筆記情報をデジタルペンで読み取り, 教師の計算機に集約したりプロジェクタに投影したりするシステム AirTransNote を開発している。本報告では, 企業経営の分野で提唱されている「見える化」の考え方に基づいて, システム AirTransNote を教室内学習活動の「見える化」を行う授業支援ツールとしてとらえたときに, どのようにして生徒の学習に役立てることができるかを考察した。本システムが扱う生徒のオンライン筆記により, (1)回答プロセスの見える化(2)疑問点の見える化(3)個別学習進捗の見える化(4)全体学習状況の見える化が期待できることを述べる。

B 5) 身体動作に連動した視点変更機能を用いた落下運動の学習支援システム

岩根典之, 今田絵梨香, 松原行宏 (広島市立大学)

本研究では, VR 型学習支援システムに視点変更機能を用いた体験を組み合わせることについて検討している。視点変更機能を用いることで学習者の身体, 特に頭部の動きに合わせて仮想空間内を見回すことを通じて, 学習者は体験的に知識を習得できると考えている。本稿では, 水平投射された物体の落下運動の学習支援システムに視点変更機能を応用した例を報告する。

B 6) 診療放射線技師養成のための WBT 学習支援簡易シュミレーションシステムの開発とその評価

渋井二三男 (城西大学), 鳥谷尾秀行 (秀明学園)

There is a standard that the Ministry of Education established as the financial report of the education foundation, and an education foundation account system is making that a calculation document is made in accordance with that standard main purpose.

Such an environment is used, in differential equation of the education foundation, however control execution of the most important mathematics is taken in the outline of the corporation account and taken, too.

◆◇ 研究報告のお求めは ◇◆

研究報告のバックナンバーを購入ご希望の方は, 株式会社毎日学術フォーラムまでお申し込みください。1部1,300円(送料共)です。残部切れの際はご容赦ください。

株式会社毎日学術フォーラム

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル2階(東コア)

TEL 03-6267-4550 FAX 03-6267-4555

e-mail maf-sales@mycom.co.jp URL <http://maf.mycom.co.jp>

なお, JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読(購読料は送料込みで年間4,000円)をご希望の方はJSiSE 事務局 TEL (06-6990-3638), Eメール (secretariat@jsise.org) までご連絡ください(年間6回)。

この際, ぜひ年間購読されますようおすすめいたします。

(教育システム情報学会 研究会委員会委員長/伊東幸宏)

2006 年度第6回研究会プログラム

日時： 2007年3月17日(土) 10:00 ~ 17:00
開催地： 千里金蘭大学 (URL <http://www.kinran.ac.jp/>)
〒565-0873 大阪府吹田市藤白台 5-25-1
TEL:06-6872-0673 (代) FAX:06-6872-7309
会場責任者： 高橋参吉先生

研究会に関する連絡先： 〒 572-8508 寝屋川市池田中町1 7番8号
摂南大学 経営情報学部 松永公廣
TEL.072-839-9266, e-mail matunaga@kjo.setsunan.ac.jp

<第1会場>

10:00~12:00 ~~ 第1セッション ~~

- 1) 基礎数学教育の対面授業ブレンド型 eラーニングの実践と評価
○酒井辰也(京都コンピュータ学院, 南野公彦(京都情報大学院大学)
山西徹(京都コンピュータ学院), 江見圭司(京都情報大学院大学)
- 2) ベクトル・行列表示のある eラーニングの実践
○南野公彦(京都情報大学院大学), 松村初(京都コンピュータ学院),
山西徹(京都コンピュータ学院), 江見圭司(京都情報大学院大学)
- 3) 日本語タイピング能力としての書き言葉と話し言葉の違いについての研究
○三池克明(尚美学園大学兼任講師), 斐品正照(東京国際大学助教授)
- 4) CMC環境における非言語情報の返報性
~学習者の情意的な状態の把握能力を育成するシステムの構築を目指して
○斐品正照(東京国際大学商学部), 三池克明(尚美学園大学総合政策学部兼任講師)
岡田ロベルト(宮城大学事業構想学部), 石桁正士(大阪電気通信大学総合情報学部)
松永公廣(摂南大学経営情報学部)
- 5) 総合研究大学院大学における汎用 e-Learning プラットフォーム WebELS の導入
○佐藤博之, Yiyuan Gong(情報・システム研究機構 新領域融合研究センター),
Mahfuzur Rahman, 上野 晴樹(国立情報学研究所)

12:00~13:00 ~~ 昼食 ~~

13:00~15:00 ~~ 第2セッション ~~

- 6) 社会との連続性を有した専門教科情報のあり方に関して
-専門教科「情報」の教育内容と社会的要求との整合性に関する調査結果より-
○山口裕之(信州大学工学部), 香山瑞恵(専修大学経営学部)

- 7) 板書情報を利用した Learning Group Centered な学習環境の提案
○堀内渉 (信州大学工学部), 香山瑞恵 (専修大学ネットワーク情報学部)
- 8) 情報リテラシ授業における自主的発言の促進と少人数教育への応用
○高橋正憲 (専修大学大学院経営学研究科), 永田奈央美 (電気通信大学大学院情報システム学研究科), 香山瑞恵 (専修大学ネットワーク情報学部), 魚田勝臣 (専修大学経営学部)
- 9) 情報系学科における講義「ソフトウェア工学」の類推的思考を用いた教授法の効果
○松尾徳朗 (山形大学工学部情報科学科)
- 10) 大学における 2006 年問題に関する実態調査
○河村一樹 (東京国際大学), 小泉カキ (尚美学園大学)

15 : 10~17 : 00 ~~ 第3セッション ~~

- 11) 宮崎における教科「情報」と高校生の現状
○辻利則 (宮崎公立大学)
- 12) 普通科高校での教科「情報」実施実態調査
○栢木紀哉 (鹿児島県立短期大学), 上田千恵 (旭川荘厚生専門学院), 若林義啓 (岡山大学)
- 13) 論理的内容の動的視覚化による教育
(核心をイメージ化してクオリアに直接伝達する瞬間教育)
○浪平博人 (大妻女子大学社会情報学部)
- 14) 情報リテラシー基準としての IC3 採用の試み
○阿部一晴 (京都光華女子大学人間関係学部メディア情報専攻)
- 15) 高校普通教科「情報」の実施実態調査
○西野和典 (九州工業大学), 鷹岡亮 (山口大学), 香山瑞恵 (専修大学), 布施泉 (北海道大学), 高橋参吉 (千里金蘭大学), 岡本敏雄 (電気通信大学大学院)

<第2会場>

10 : 00~12 : 00 ~~ 第4セッション ~~

- 16) アメリカの情報教育における高大接続・連携の新たな展開
○中條道雄 (関西学院大学総合政策学部)
- 17) 高大の接続を意識した大学での情報基礎教育
○龍昌治 (愛知大学)
- 18) 平成 18 年度入学者のパソコンリテラシ
○知念正剛 (福岡医療短期大学歯科衛生学科), 金崎信夫 (福岡歯科大学, 歯学部)
- 19) 教科「情報」を履修した入学生へのコンピュータリテラシー教育
○石川千温, 中村永友, 渡邊慎哉, 小池英勝 (札幌学院大学)

- 20) 教員養成学部における知的財産教育に関する基礎的研究
○阿濱茂樹（山口大学教育学部）

12 : 00～13 : 00 ～～ 昼食 ～～

13 : 00～15 : 00 ～～ 第5セッション ～～

- 21) リアルタイム授業評価システムの開発と模擬授業への適用
○白石剛一（九州工業大学大学院情報工学研究科），山口真之介（九州工業大学情報工学部），
大西淑雅（九州工業大学 e-ラーニング事業推進室），西野和典（九州工業大学情報工学部）
- 22) グループ学習支援のための知的 E-NOTEBOOK システムの開発
○万 欣，安間文彦，岡本敏雄（電気通信大学大学院情報システム学研究科）
- 23) キーワードを付加した Web 地図システムの設計・構築
○櫻田一聡 安間文彦 岡本敏雄（電気通信大学大学院情報システム学研究科）
- 24) 理工系学生の論文作成支援を目的とした文書可視化システム
○松本章代，鈴木雅人（東京工業高等専門学校），市村洋（サレジオ工業高等専門学校）
- 25) 練習量を促進するタッチタイプソフト
○二木映子，中島信恵（宇部工業高等専門学校 経営情報学科），
藤井美知子（宇部フロンティア大学短期大学部）

15 : 10～17 : 00 ～～ 第6セッション ～～

- 26) アニメーションを取り入れたVBプログラミング授業の効果
○宮地功（岡山理科大学）
- 27) 惑星運動シミュレーション
○作花一志（京都コンピュータ学院），江見圭司（京都情報大学院大学）
- 28) 多様な子どもの発達段階に対応した発達記録支援システムの構築
○仁木賢治，糠野亜紀，新谷公朗，金田重郎，芳賀博英（同志社大学工学部知識工学科）
- 29) アルゴリズム学習用ソフトの開発
○太田幸一（大阪経済大学経営情報学部ビジネス情報学科）
- 30) 大学におけるプログラミング基礎教育の実践
○佐野繭美（摂南大学），横山宏（大阪電気通信大学），下倉雅行（大阪大学大学院）
松永公廣（摂南大学）

第32回通常総会報告

日時：2006年8月24日（木）

場所：大阪経済大学 C館31教室

第2号議案 2004年度決算報告および監査報告に関する件

1. 2005年度収支決算書総括表（2005年4月1日から2006年3月31日）

(1) 収入の部

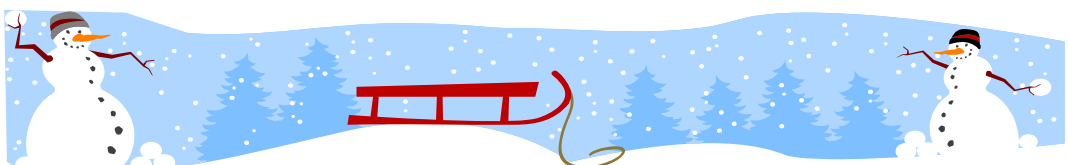
(単位：円)

科 目	合 計	通常会計	事業会計
1. 入会金	42,000	42,000	—
2. 会費	7,578,700	7,578,700	—
3. 資料販売等	3,274,040	3,274,040	—
4. 広告収入	1,004,410	1,004,410	—
5. 全国大会	5,326,190	—	5,326,190
6. 企画セミナー	0	—	0
7. その他	108,035	108,035	0
当期収入合計 (A)	17,333,375	12,007,185	5,326,190
前年度繰越収支差額	3,420,760	2,010,020	1,410,740
収入合計 (B)	20,754,135	14,017,205	6,736,930

(2) 支出の部

(単位：円)

科 目	合 計	通常会計	事業会計
1. 印刷費	5,106,428	5,106,428	—
2. 通信費	1,545,598	1,545,598	—
3. 会議費	483,705	483,705	—
4. 旅費	330,000	330,000	—
5. 人件費	3,281,933	3,281,933	—
6. 消耗品費	313,088	313,088	—
7. 支部支援費	172,635	172,635	—
8. 賃借料	441,000	441,000	—
9. 全国大会	5,312,534	—	5,312,534
10. 企画セミナー	0	—	0
11. 30周年記念事業	200,600	—	200,600
12. その他	149,676	149,676	0
13. 予備費	437,738	437,738	0
当期支出合計 (C)	17,774,995	12,261,861	5,513,134
当期収支差額 (A) - (C)	△441,620	△254,676	△186,944
次期繰越収支差額 (B) - (C)	2,979,140	1,755,344	1,223,796



2. 2005年度収支計算書類（2005年4月1日から2006年3月31日）

1) 通常会計収支計算書

(1) 収入の部

(単位：円)

科 目	2005年度予算	2005年度決算	増減	備考
1. 入金金	130,000	42,000	△88,000	42人
2. 会費	9,100,000	7,578,700	△1,521,300	
正会員	7,490,000	5,949,300	△1,540,700	762人
準会員	360,000	384,400	24,400	93人
企業・団体(維持)会員	1,250,000	1,245,000	△5,000	33社
特殊会員	0	0	0	
3. 資料販売等	3,200,000	3,274,040	74,040	
研究報告	1,100,000	1,600,520	500,520	研究会等売上増
学会誌	2,100,000	1,673,520	△426,480	別刷の減少
4. 広告収入	15,000	1,004,410	989,410	学会誌広告掲載による
5. その他	300,000	108,035	△191,965	
当期収入合計 (A)	12,645,000	12,007,185	△637,815	
前年度繰越収支差額	2,010,020	2,010,020	0	
収入合計 (B)	14,655,020	14,017,205	△637,815	

(2) 支出の部

(単位：円)

科 目	2005年度予算	2005年度決算	増減	備考
1. 印刷費	5,100,000	5,106,428	6,428	
学会誌	2,500,000	1,916,636	△583,364	印刷・校正費を 2年分支払い
英文誌	900,000	1,389,570	489,570	
ニューズレター	350,000	366,030	16,030	印刷冊数の増加
研究報告書	650,000	845,722	195,722	
封筒印刷費	300,000	309,750	9,750	
その他印刷費	400,000	278,720	△121,280	
2. 通信費	2,200,000	1,545,598	△654,402	宅配業者使分けの為
3. 会議費	600,000	483,705	△116,295	
4. 旅費	350,000	330,000	△20,000	
5. 人件費	3,000,000	3,281,993	281,993	契約社員, アルバイト
6. 消耗品費	500,000	313,088	△186,912	事務用品費
7. 支部支援費	550,000	172,635	△377,365	
支部	60,000	60,000	0	3支部×20,000円
研究会委員会	90,000	79,000	△11,000	
その他支援費	400,000	33,635	△366,365	
8. 賃借料	441,000	441,000	0	レンタルサーバ
9. その他	300,000	149,676	△150,324	支払手数料, 福利厚生等
10. 予備費	1,614,020	437,738	△1,176,282	事務局移転費用
当期支出合計 (C)	14,655,020	12,261,738	△2,393,159	
当期収支差額 (A) - (C)	△2,010,020	△254,676	1,755,344	
次期繰越収支差額 (B) - (C)	0	1,755,344	1,755,344	

2) 事業会計収支計算書

(1) 収入の部

(単位：円)

科 目	2005年度予算	2005年度決算	増 減	備 考
1. 全国大会	0	5,326,190	5,326,190	
2. 企画セミナー	0	0	0	
3. その他	0	0	0	
当期収入合計 (A)	0	5,326,190	5,326,190	
前年度繰越収支差額	1,410,740	1,410,740	0	
収入合計 (B)	1,410,740	6,736,930	5,326,190	

(2) 支出の部

(単位：円)

科 目	2005 年度予算	2005 年度決算	増 減	備 考
1. 全国大会	0	5,312,534	5,312,534	
2. 企画セミナー	0	0	0	
3. 30周年記念事業	1,000,000	200,600	△799,400	日独ワークショップ
4. 予備費	410,740	0	△410,740	
当期支出合計 (C)	1,410,740	5,513,134	4,102,394	
当期支出差額 (A) - (C)	1,410,740	△186,944	1,223,796	
次期繰越収支差額 (B) - (C)	0	1,223,796	1,223,796	

3. 貸借対照表 (2006年3月31日現在)

(単位：円)

普通預金(みずほ・麹町) 1325993	518,617	前受金		43,000
普通預金(みなと・塚口) 1514304	29,808	未払金		3,012,255
普通預金(池田・上新庄) 13440	1,211,240	負債合計		3,055,255
普通預金(みずほ・麹町) 2132303	1,353,346			
普通預金(みずほ・本郷通) 8040276	391,769	基本金		4,237,205
普通預金(りそな・塚口) 7016502	106			
郵便振替 6-709632	2,348,649			
郵便定期(基本財産)	4,237,000	別途積立金	通常 事業 0 200,000	200,000
現金(基本財産)	205	次期繰越収支差額	通常 前期 2,010,020 当期 △254,676	1,755,344
現金 事務局 103,351 英文誌 9,333 全国大会 13,656	126,340		事業 前期 1,410,740 当期 △186,944	
未収入金	254,520	資本合計		7,416,345
資産合計	10,417,600	資本負債合計		10,471,600

4. 計算書類に対する注記

次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金・預金	3,420,760	2,979,140
合 計	3,420,760	2,979,140

「オーストラリア関連学会との交流ツアー」参加報告

参加者：岡本敏雄、吉田 覚、西端律子、二宮利江

オーストラリアの教育システム情報学に関連する学術団体との交流を目的として、2006年11月29日から12月3日にかけて、国際化委員会を中心とする学会員4名でオーストラリアに行ってきました。

<シドニー大学>

まず、11月30日にシドニーに到着後、シドニー大学関係者とランチミーティングを行いました。副学長の Andrew Coats 教授から、オーストラリア国内15大学医学部の学生データベースとそれを利用した追跡調査や研修のプログラムについて話がありました。25年にわたる国家レベルの医学生データベースを利用して、医学部生、卒業生へのアンケートや医学部側から教育プログラムが提供される双方向の活動が行われているそうです。

午後からは、第一線で活躍している教職員によって、シドニー大学研究プロジェクトの紹介がありました。Web Engineering Group の Rafael A. Calvo 博士から、グループ内の研究成果である教育システムの内容や現在進行中の携帯電話図書検索プロジェクトなどの紹介があり、Visualization & High Performance Computing Lab の Masahiro Takatsuka 研究室長からは、最新のビデオ会議システムの紹介がありました。その他、Australian Research Fellow の Sonia Mycak 博士からは、岐阜大学でビデオ会議を用いて開講している講義について、図書館員の John Shipp さんからは、24時間営業の図書館や学生の協調学習場などの構想について、Smart Internet Technology Research Group の Judy Kay 助教授からは、教育システム内のパーソナル化、視覚化、コピー防止などに関する研究について紹介がありました。

シドニー大学側のプレゼンテーションの後には、JSiSE との共同研究、プロジェクトや学生あるいは単位交換などについての議論が大いに盛り上がりました。

<シドニー工科大学>

翌12月1日には、シドニー工科大学の遠隔教育ラボを見学しました。様々な実験装置がオンラインで接続されており、学生が Web 上でカメラ映像を見ながら、実験機器を操作できるシステムになっています。工学系分野の大学ですので、教育上、実験が重視されていますが、実際に私たちが学部時代に実験室で行ってきた実験の装置が、誰もいない実験室内で、遠くにいる学生によって操作され動いていることに、少なからず衝撃を受けました。頭で理解していたものの、今の学生の中にはこのような教育を受けている人もいるのだと、実物を目の前に再確認させられた感じでした。その時、金属のゆがみを計測するためにストレスをかけていく「あの緊張感」、物質が生成された時の「あの感激」は、Web カメラで伝わるのだろうか、などと考えていた私は既に古い人間なのかもしれません。

見学の後には、Archie Johnson 学部長と David Lowe 副学部長との懇談会があり、工学系単科大学の生き残りをかけた戦略 (e-Learning を含む) などについてのお話を伺いました。その中でも、インドや中国からの留学生確保を重要視している印象がありましたが、もちろん日本人も歓迎とのことでした。

<e-Learning 企業とのミーティング>

シドニー工科大学の見学を終え、午後には e-Learning 関連企業とのミーティングを行いました。JSiSE 側から、日本の e-Learning 事情（大学、企業の取り組みなど）についてプレゼンテーションを行った後、オーストラリアの e-Learning 関連企業の商品や取り組みについて次の企業から紹介がありました。Enikos の Jonathon Wolfe CEO から Woolloongong 大学との共同研究について、Knapp&Moore の Michel Knapp 代表から e-Learning における音楽レッスンの取り組みについて、Evolve Studios の Learning & Performance Solutions 部門の Robert J. Reiner 部長からメンタリングシステムや警察のプロジェクトについて、ASF Group の Terry Hilsberg 氏から中国との関係について、Redbean の Paul Mckey 常務からミシガン州立大学との共同研究についてプレゼンテーションがありました。その後、大学と企業の協力関係や著作権の問題など、多様な観点からの議論となりました。

<関連学術団体とのミーティング>

最終日の 12 月 2 日には、本ツアーの目的であるオーストラリアの教育システム情報学に関連する学術団体とのミーティングが行われました。シドニー大学教育学部 CoCo ラボの Peter Reimann 教授からは、グループ学習、教育—技術—利益の統合からデータマイニング、AI まで幅広い話題が提供され、続いて Macquarie 大学の John Hedberg 教授（ODLAA 副会長：The Open and Distance Learning Association of Australia Inc.）から視覚化（ワトルツリーダイアグラムを含む）、データマイニング、Wiki などの話題、シドニー大学の Shirley Alexander 教育学部長からパートタイム、社会人学生に対する教育に関連した話題、Capella 大学 KnowledgeCraft 系理事の Rod Sims 客員教授から国内外の学生を対象にした完全遠隔教育に関する話題、Auckland 大学の Cathy Gunn 教授（ASCILITE 会長：The Australian Society for Computers in Learning in Tertiary Education）から研究—理論—技術の面からの学習デザインと ASCILITE についての話題、ELNET の Marianne Cini さんから Elnet (Elearning Network of Australasia: as independent community of elearning professionals) の紹介がありました。

最後に、ODLAA の Ann Forster 会長（Forster&Gibson Pty Ltd 代表、Maryland 大学客員助教授）による総括が行われ、続いて JSiSE とのジョイントミーティング／会議／ワークショップ／ネットワークについての検討に入りました。そこで、2007 年 7 月に日本で開催される IEEE ICALT（JSiSE 国際会議）において共同企画を立ち上げる方向に話が進み、このミーティング終了後も、引き続き協議を続けることになりました。

この日の夜にシドニーを発ち、日本に戻って参りましたが、短期間で非常に多くの方々から貴重なお話を伺ったため、個人的には未だに消化しきれていない部分が多くあります。しかし、この交流会をきっかけに JSiSE とオーストラリアの関連学術団体・研究機関との共同事業が始まっていくことは間違いないでしょう。以上のように、とても有意義なツアーでしたので、中心となって計画してくださった吉田覚さん（データパシフィック）、Mark Grosser さん（aimtec）そして Ann Foster さん（Foster&Gibson Pty Ltd）には、心から感謝申し上げたいと思います。今後、同様の機会がありましたら、他の会員の皆様にも参加をお勧めしたいと考えております。貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

2007 年度 JSiSE 研究会予定

第 1 回	2007 年 5 月／6 月	e-learning／企業内（東京）	仲林，松居，石打
第 2 回	2007 年 7 月	Web テクノロジー（北海道）	不破，野崎，小松川
第 3 回	2007 年 10 月	問題作成，スキル（名古屋）	柏原，平嶋，小尻，曾我
第 4 回	2007 年 11 月	生涯学習（中国・四国）	黒瀬，米澤，林
第 5 回	2008 年 1 月	モバイル・ユビキタス（東京）	佐々木，渡辺
第 6 回	2008 年 3 月	情報教育関係（静岡・浜松）	松永，西野

詳細が決まっているもの，決まりつつあるものは以下の通りです。

第 1 回

開催期日：2007 年 5 月 25 日，6 月 1 日，6 月 8 日のいずれか
 開始場所：東洋大学（東京，文京区白山）（予定）
 開催テーマ：e-learning／企業内／HRD（詳細は未定）
 担当：仲林，松居，石打

第 2 回

開催期日：2007 年 7 月 14 日（土）
 開始場所：千歳科学技術大学
 開催テーマ：Web テクノロジー／その他
 担当：不破，小松川，野崎

第 3 回

開催期日：2007 年 10 月 20 日（土）
 開始場所：名古屋大学
 開催テーマ：問題を中心とした学習支援およびスキル支援／その他
 担当：柏原，平嶋，小尻，曾我

第 4 回

開催期日：2007 年 11 月 24 日（土）
 開始場所：香川大学
 開催テーマ：生涯学習につながる初等中等教育機関への ICT 学習支援／その他
 担当：米澤，黒瀬，林